

Exhibit 176

極東國際宣戰裁判

亞米利加合衆國外

對

口供書

荒木貞夫外

私、岡田啓介ハ良心ニ覺ツテ次ノ事ノ眞實ナルコト
ヲ宣誓スル。

私ハ田中内閣ニ於テ一九二七年（昭和二年）四月二
十日ヨリ一九二九年（昭和四年）七月一日迄海軍大
臣デアツタ。齋藤内閣ニ於テ一九三二年（昭和七年）
五月二十六日ヨリ一九三三年（昭和八年）一月一
日迄海軍大臣デアツタ。一九三四年（昭和九年）七
月八日ヨリ一九三六年三月八日迄内閣總理大臣デア
ツタ。先ヅ一九二八年（昭和三年）頃陸軍部内ニ亞
細亞大陸ニ進出セントスル一役的氣運ガアツタ。

當時ノ首相田中大將ハ大陸ニ圖スル最後の計畫ヲ持
ツテ居リ、張作霖ヨリ重要ナ新路線ヲ開ク鐵道敷設
權ヲ獲得スル代表ヲ滿洲ニ派遣シタ而シテソノ路
線ハ滿洲ニ於テ一般ニ平和狀態ガ保タレル場合ニ於
テ始メテ最初ノ計畫通りニ敷設ラレシモノデアツタ
。前述ノ田中首相ハ本和ヲ保ツ意ニシテ、張
作霖ヲ滿洲ニ居ラセ、ホバヤラ、北京ニ居ラセテハ
イケナイト考ヘタ。ソレ故南滿洲鐵道内訌ヲ避
ケル爲前述張作霖ガ奉天ニ向ヒ出發シ、ソシテソノ

ハム・ハム

途中機嫌ノ悪化ニヨリ殺サレタノデアル。之ガ内閣
ニ達シタ時前田中首相ハ非常ニ怒リ「陸軍ガソ
ナ事ヲヤツテハ、吾々ノ計画ヲ進メル事ガ不可能
ナル」ト述べタ。更ニ前田中首相ハ再ビ大隈ニソ
ノ様ナ事件ガ起ラスヤウ責任者ヲ嚴重ニ處罰セネバ
ナラスト述べタ。其ノ後、私ト陸相白川大將トノ會
談ノ席上前田中首相ガ直チニ参内シ陛下ニ此ノ事
ニ就テ奏上スル事ニ意見ノ一致ヲ見タ。前田中首
相ハ陛下ニ拜謁後宮中ヨリ閣議ニ戻リ陸相ニ進ンデ
強作樂害ノ責任者ノ處罰ヲ續ケルヤウ指示シタ。
前田中白川大將ハ陸軍省ヘ戻ツタカ爾處強害ノ責任者
ノ處罰ニ關シテハ軍務局長杉山元大將ト參謀總長金
谷範三大將ガ陸軍部内ノ問題ヤ懸念ハ陸軍ガ當ルベ
キダト考ヘテ居タ爲ニ思フヤウニ行カナカツタ。首
相ノ田中大將ガ陛下ニ犯罪者達ハ陛下ノ御希望通り
ニ處罰シ得ナカツタ爲田中内閣ハ総辭職シタ。
閣東軍ハ此ノ事件ニ依ツテ、閣東軍ガ東京ノ日本政
府ニヨリ強カデアリソノ勢力ハ參謀本部迄ニモ及ン
デキルコトラ立證シタノデアル。
私ガ参謀内閣ノ初期七ヶ月間首相デアッタ間ニ内閣
ハ首相齋藤大將ガ陸軍ノ豫算ノ削減及ビ陸軍ノ豫算
追加ヲ拒否スル政策ヲ遂行シタ爲非常ナ難局ニ遭遇
シタ。
私ハ一九三四年（昭和九年）内閣總理大臣ニナツタ

時ニハ陸軍ノ勢力ハ強クナリツツアツタ。一九三五
年（昭和十年）眞崎義三郎大將ガ教育總監ノ地位ヲ
追ハレタ。相澤中將ガ之ニ抗議シテ軍務局ニ彈劾タ、
軍務局長永田中將ヲ殺シタ。私ハ首相トシテ相澤專
件ヲ非常ニ遺憾トシ此ノ將校ノ起訴ヲ促シタガ陸軍
ハ勝手ニ調査ヲ進メ首相ヤ内閣ノ介入ヲ許サナカツ
タ。私ハ首相デアツテモ一介ノ陸軍將校ニヨツテ犯
サレタ此ノ犯罪ノ調査ニハ無力デアツタ。

當時ハ林銑十郎大將ガ陸相デアツタ。軍務局長デア
ツタ前述永田將軍、暗殺後私ガ「オ互ニ殺サレル迄
一語ニヤラウト」言ツテ前述ノ林大將ヲ説得セザル
キヲタガシ彼ヲ閣内ニ留任セザルコトヲ拒ンダ。前述
林大將ハ自分ガ閣内ニ留ムルコトハ軍部ノ不安動搖
ノ種ニナルト言ツテ全大將連ガ推立ヲ協定セル川島
將軍ヲ推シタ。何人デアラウト前述林大將ノ後任ハ
相當ノ危険ヲ冒スコトニナル事ハ吾々閣員ノ誰ニト
ツテモ明瞭ナコトデアツタ。

一十三六年（昭和十一年）二月二十六日二十二ノ
將校ト約千四百ノ兵ガ政府ニ對シ反亂シ東京ヲ三日
半ニ亘リテロ化シタ。反亂軍ハ首相官邸、議會、内
務省陸軍省、審視廳及參謀本部ヲ占領シタ。

私ノ閣僚高橋資相、内府齋藤伯、及ヒ渡邊大將ガ此
ノ陸軍ノ過激派ノグループニ機關銃デ殺サレタ。前
内府牧野伯、鈴木内府議長ソレニソウ言フ私ガ辛ク
モ死ヲ免レタ。此ノ陸軍ノ反亂ノ結果トシテ私ノ内
閣ハ總辭職シタ

岡田 啓 介
(自署)

日本國東京巴里會議會ニ於テ一九四六年（昭和二十一年）六月十七日左ニ署名セル士官ノ前ニ於テ前記岡田啓介ニヨリ宣誓シ署名セラレタリ

法務部長大尉

ヘリーマン・ドリスイー（自筆）

証 明 書

予ハ、予・フレッド・F。 金川ガ日本語、英語ニ通ジセル事、及ビ本日前記岡田啓介ニ別紙口供書ヲ日本語ニヨツテ提供カセ、且ソウスルコトニ於テソノ内容ヲ眞實ニ且正確ニ英語ヨリ日本語ニ翻譯セシ事、及ビ前記岡田啓介ハ予ニ該口供書ノ内容ハ眞實ナリト申述ベ且彼ハ該口供書ヲ予ニ提供セシ事、及ビ前記岡田啓介ハ予ノ面前ニ於テ正確ニ宣誓シ予ノ面前ニ於テ該口供書ヲ署名セシ事、及ビ該口供書及ビ該口供書署名ノ處理ニ附帯セル全手続ハ眞實且正確ニ日本語ヨリ英語ニ英語ヨリ日本語ニ翻譯セラレ且宣誓人ニヨリ完全ニ履行シ合符セラレタル事ヲ此處ニ証スルモノ也

1157-5

日本に東京に於て

一九二六年（昭和二十一年）六月十七日

米軍官軍少尉

アレック・P・金川（自筆）